

研究推進部では活動内容を校内外に紹介するために、研究推進部通信 **K★ing** を発行している。本稿は、「総合」「探究」と各種講演会を行った内容を抜粋し、総集編の形にまとめたものである。

第1学年探究

4月24日（水）

担当者8人で行う授業ですが、今回は丹生が「課題研究メソッド Start Book」を使って、探究活動（課題研究）の在り方を簡単に説明し、「文章を読もう」という章を使って、実際に演習してみました。探究活動を進めるうえでは「疑問を持つこと」「興味・関心のあること」を大切に、地域・世界の抱える課題を「自分事として」とらえましょう…と話しています。



5月8日（水）

今回のテーマは「問いをたてる」でした。

身近なことで「なぜ?」「なに?」と疑問に感じることを、自由に書き出していきました。「なぜ、(自分は) 忘れ物をするのか?」「女の子は、なぜ恋バナが好きなのか?」という個人的な疑問から、「たまねぎを切るとなぜ涙が出るのか?」「空はなぜ青いのか?」「風はなぜ起こるのか?」「ことばはどのように生まれたか?」「世界中にはなぜ多くの言語があるのか?」「虹の足元(?)はなぜ見えないのか?」「おなじクローバーなのに、なぜ三つ葉と四つ葉ができるのか?」「ドローンの仕組みは?」…など、ありとあらゆる疑問が飛び交っていました。次に、ここで感じた疑問を「探究」の活動である「丹波の課題を解決する」「丹波の魅力を発信する」に結び付けられるものはあるだろうか?と考えました。中には、身近にいる外国人労働者が、空き家を改装した社宅に住んでいることを題材に、「人口増加や空き家の活用に役立てる方法があるのではないか?」と、いきなり核心を突いたことを書いている人もいました。ほかにも「ドローンを利用して、一人暮らしの老人の買い物を助けられないか?」「四つ葉のクローバーばかり育てて観光資源にできないか?」…と1年生のこの時期とは思えない発想が見られたことは嬉しい驚きです。

5月15日（水）

「テーマを決めよう」という話題で、前回立てた問いが丹波の課題にどう結び付けられるかを考えました。その前に、「課題研究メソッド Start Book」を用いて、「マンダラート」という手法を学びました。気になったキーワードをあげ、その言葉を中心に連想できることばを書き出して、テーマに広がりが出るかどうか考えました。

6月5日（水）

高畑先生の講義を受けて、「課題研究に大切なことは何だろう?」「丹波市の発展を考えたとき、あなたはどんな選択肢を考えますか? 1 観光都市化 2 広域商業都市化 3 居住都市化 4 国際化 5 情報都市化 6 その他」という設問に答えながら、話し合いを進めました。最終的には「寺社などの建造物保全」「自然環境保全」「防災強化」「生活環境改善」「国際化」「外国人材受け入れ促進」などのグループに分かれました。



6月12・19・26日（水）

26日にテーマを決め、7月16日の中間発表に臨むことになっています。前回と今回はコンピューター室と図書室を利用しました。最初に決めたテーマを変える人もいれば、同じテーマで調べ続ける人もいます。発表会では2年生の先輩のプレゼンも見て、夏休み以降の研究に活かしてもらいたいと期待してくれることでしょうか。中間発表会では地域の各分野の専門の方々にもアドバイスしていただく機会を持ちます。



7月11日（木）

16日の合同発表会に向けて、最終準備の時間となりました。7月10日の朝にレポート提出となっていました。提出できていない人もおり、「準備を大切にしてください」と苦言を呈してのスタートとなりました。それでも、大部分の人は自分なりに考えて、一生懸命話していました。5人ずつのグループに分かれて7人の担当者が、一人ずつの発表を聞き、ほかのメンバーからの質問を聞いて、アドバイスをしました。16日の発表では、7人が同時に発表し、2年生、探究Ⅰ・Ⅱの担当の先生、地域からお招きする専門家の方々から、テーマ設定や夏休み以降の活動に向けてアドバイスを受けます。



9月18日・25日（水）

1年生の探究は個々のテーマに分かれて、探究活動に入っています。各担当の先生から、活動に応じて、「訪問に際してアポの取り方」「インターネットでの資料の集め方」「リサーチエスチョン、仮説を見すえた目標設定」などレクチャーがあり、それぞれのやり方で進んでいます。なかには、この地域のお店を授業の時間を使って訪問する計画を立てている班もあり、動きが活発になりそうです。来月下旬には、福知山で行われる「マイプロジェクト」への出場が直近の目標です。



12月4日（水）

1年生の知の探究コースでは、先週と今週の2回、中間報告会を開きました。前回は丹波市の総合政策課からもお越しいただいて、高校生の意見を聞いてもらいました。その中で、丹波市に限らず全国的、世界的規模でも考えられるテーマについて話していた人たちには、裏面で紹介した甲南大学でのリサーチフェアに出るよう促しています。テーマは多岐にわたり、以下ようになります。まちづくりの観点では「丹波市を魅力ある町に」「子育てしやすくなるように」「丹波三宝、その他の特産品を活かす」「授産製品を広める」「ごみのない町になるように」「他の市の例を学びながら」「バスも効果的に利用して」「柏原の城下町を魅力的に」。教育について、「わかりやすい学校案内を」「保護者が関われる環境を」「教室の机や授業時間などを考える」、多文化共生を考える人達は、「言語学習をわかりやすく」「病院での通訳なども取り入れる」。ごみの問題では、自分たちでごみ拾いを実施して「プラスチックごみを減らしたい」「ポイ捨てを無くすために、地図、看板を作る」「捨てる人の心理を探る」。高齢者にとって住みやすい市にするために「生きがい・仕事について考える」「高齢者にやさしい交通手段」



第2学年探究

4月13日(土) 国際公共政策カンファレンス

知の探究コース2年生の石塚愛佳さん、井上桃さん、谷垣研太君は大阪大学豊中キャンパスを訪問し、国際公共政策研究科主催国際公共政策カンファレンスに参加して研究発表を行いました。

「丹波市の外国人労働者と空き家問題」について、「丹波市で増加する空き家を、賃貸住宅や外国人同士の憩いの場にしたい」と高校生らしい視点で提案を行いました。20分間の発表後、大学の先生方から助言をいただきました。



4月16日・23日(火)

1年生の時に進めてきた研究テーマを再考し、具体的に動き出せるように話し合っています。グループで取り組んできた課題が、自分のやりたいテーマかどうかじっくり考えます。場合によっては、グループが分かれることもありそうです。

5月14日(火)

スタンディングデスク班は株式会社栗田商店さんに行き、そこで丹波の木材を使用したオリジナルデスクの作成について議論を重ねています。さらには、有限会社ウッズ Ws Ltd.Co.さんの協力を得て、山林の見学にも赴く予定です。また、防災班も市島町の前山地区を見学に行ったり、地域の方から聞き取りを行ったりしています。



6月4日(火)

有限会社ウッズさんが管理されている山に入れていただきました。手入れされた山に入るのは初めての経験で、すごく興味深い話を聞くことができました。先の豪雨災害の爪跡やその復興現場も見学しながら、山林の中でどのように木々やその周辺が管理されているのか、また、どのような思いがそこに込められているのかなど、本当にたくさんのお話を教えていただきました。込められた思いを感じ取りながら、今後の活動につなげていきたいと思えます。



7月16日(火) 知の探究コースの中間発表会

1年生は現時点で考えているテーマについて、

(1) テーマの説明 (2) 興味を持ったきっかけ (3) 今後の活動予定 (4) 今、悩んでいることなどを3分間で話し、その後5分間の質疑応答、アドバイスがありました。前週の「リハーサル」では、「3分間話しきるように」という指示があったにもかかわらず、大半の人は2分で終わっています。内容を深め、原稿を棒読みするのではなく聞いている人に語りかけることができれば、3分なんてすぐ経過するはず。今後のプレゼンテーションに期待しましょう。

「人生100年時代、高齢者にも働きやすい環境を、インターネットも利用して作っていきたい」「景観のよい街づくりをして、観光客を呼び込みたい。電柱を地中に埋めるなどすればどうか」「バスの自動運転が可能になれば、高齢者の通院や買い物も容易になるはず。ルートを考えたい」「障害のある人たちにも優しい街づくりを進めたい。無人駅や道路の整備が必要」「丹波市の教育を充実させたい。海外の教育事情と比較してみたい」「子育てをしやすい街づくりを進めて、住みたいまちにする。人口増につなげたい」「今後、丹波市内の労働者が減ることが考えられる。外国人労働者も増えるだろうから、その人たちが住みやすい街づくりをしていきたい」…など、それぞれの視点で丹波地域の抱える課題をとらえて、改善策を考えていました。来ていただいた、宮川五十雄さんと畑道雄さんからは、「1年生なりによく考えていますね。惜しむらくは、『丹波市の課題』という『何かをしてあげよう』という視点にとどまっていて、当事者意識がないことでしょう。自分が『100歳まで生きる』、『ここで子育てをする』、『子どもを学校にやる』…その立場で考えられるかが問われます。『外国人にとって住みやすい環境』というものは、自分たちにとっても住みやすい環境であるはず…。じぶん事…当事者であり、協力者としての立場で考えてほしいですね。2年生は、さすがに2年目ということもあってよく調べていて、以前見た発表会からは、ずっとよくなっています。」

その2年生の探究Ⅱのテーマは以下の通りです。それぞれ、5分の発表の後に10分間の質疑応答・アドバイスの時間を取りました。1年生は自分の興味のあるテーマの発表を聞いています。

「身近な愛宕へ」、「柏原高校をよくするには(タブレット導入について)」、「災害時における手作りハザードマップの成果と課題(平

成 26 年 8 月豪雨における丹波市市島町上鴨坂地区を事例にして)、「丹波市における外国人労働者と空き家問題に関する調査」

「人口減少は本当に避けるべき問題なのか」、「育てる特産品からつくる特産品へ」

「Relation between People and Pollen)」、「授業スタイルの改革に向けた一提案～スタンディングデスクを題材として～」、「丹波市を外国人の住みやすい町に」、「情報通信を活用した産業発展による地域振興」、「特産品の加工と広報」

例えば、『丹波栗を離乳食に』という発想については、畑さんから心強いコメントをいただきました。

「丹波三宝と絡めれば商品化は可能でしょうね。今後は、いかにそれを形にして市や産業界にアピールできるか?『食の安全・安心』は求められていますし、求める人は多少高くても買うはずです。健康食品、自然派を謳っている企業に訴えれば加工場にお願ひできます」このアイデアを、食品加工技術を持つ氷上高校とシェアして、「丹波の高校生の生んだ商品」ということで商品化できれば、「子育てに安心・安全」「子育て世代に魅力ある町」「他にはない特産品」という様々な角度から売り込めますね!と、三人で盛り上がっています。実は、この班は3月の発表会で、畑さんから手厳しい指摘と質問を受けて、返す言葉もなかった人たちです。めげずにこの1学期間、同じテーマに取り組んできました。



宮川さんに、「花粉を調べている班員が、カンボジアで調査をしようとしています。カンボジアには針葉樹は少なかったように思いますが、花粉症の有無は気候にも関係するのでしょうか」と聞いてみると、「熱帯地方でも、植物の花粉はあるので、別の種類のアレルギーはあるでしょうね。それよりも、環境の違いということであれば、コンクリートとアスファルトで囲まれた都会でも田舎と同じくらい花粉症の人がいるということに着目してはどうでしょうか。土と草木の多い環境だと、花粉は吸着されるものですが、都会環境では花粉はいつまでも残るので、風で舞い上がっていつまでも人の周りになるのです。」これを聞いて私から「そういえば、私が子供の頃は全部の道が舗装されていたわけではなく、家の前は土か砂利でした。丹波も舗装が進んで、コンクリート建築、とアスファルト道路が増えるにつれて花粉症が広まってきたということは言えませんか」と聞くと、「それも関係ないとは言えないかもしれません。花粉症のメカニズムというものは、医者が解明しようとしてなかなかできていないことなので、視点をそういった生活環境に向けてみるとわかりやすいのかもしれない。大きく花粉症というのではなく、『花粉症に悩む柏高生に対処法を!』という狭い範囲に絞ったほうが、取り組みやすいかもしれません」とのこと。1年生の中で、「景観を『昔』に戻す」という提案をしていた人に「柏原町の舗装道路を土の道に戻したらどう?」と尋ねると、否定的な笑みを浮かべていましたが、意外と花粉症を解決する鍵を握るかもしれませんよ。

スタンディングデスクについては、昨年から試作品を教室でも試しているようですが、この夏、社内会議で実際に使用しているスターバックス社、マイクロソフト社を訪問して社員の皆さんから話を聞く予定です。学校現場でも Adjustable な机が使われているということなので、この目で確かめてきます。これが「授業の改善」「働き方改革」などの一助になればいいですね。

「柏原高校をよくするには」班の人たちは、一部の人がタブレット導入を、一部の人が中学校に赴いて中学生を対象に「柏原高校の魅力」を訴えてくる予定です。来年、志望者が増えたらこの人たちのプレゼンテーションがよかったということでしょう。さらに、この班のメンバーはカンボジア、アメリカに飛んで魅力ある学校とは何かを現地の高校生と話し合ってくる予定です。

「外国人労働者と空き家問題」班は、以前から丹波に住む外国人労働者への聞き取り調査を行い、コミュニティの形成に自分たちがどう関われるかを考えています。おそらく多様なバックグラウンドを持つアメリカの高校生と、多文化共生社会について話しあう機会があるでしょう。

12月19日(木) 知の探究コース1・2年生の合同発表会

1時間目は1年生35人が7つのグループに分かれて、それぞれに2年生と先生方、助言者の方に入っていただきました。前回、学年内で発表したことを先輩や大人の方々にも聞いてもらい、質問、助言を受けることで、より具体的にテーマが絞ることができればと思っています。2年生は前週に福知山のマイプロジェクトで発表したこともあり、内容も話し方もレベルアップしていました。終了後の助言者の方々からは「1年生と2年生では、こんなにも違うのか。1年間の学びは大きい」「特に、丹波三宝で離乳食の班は夏に思いきりダメ出しをしてから伸びてきた。」「丹波三宝、スタンディングデスクなどは何とか形にしてあげたい」と、ありがたい感想をいただきました。一方で、「課題解決のためには、他人と力を合わせて一つの問題を考えることが必要になってくる。個人ですることも時には必要だが、できればグループで取り組むようにしてはどうか」という意見をいただきました。

第1学年総合

4月24日(水)

初めての総合では、オリエンテーションと読み方に絞って講義と演習を行いました。

1年生では「柏原高校百年史」から抜粋したいくつかの年代について読んで、「柏原高校はなぜ、今あるところまでできたのだろう？」というテーマで話し合うことにしています。5つのパートに分かれた本を読みながら、不明な語句、重要な出来事、人物を書き出すという活動は2学年と同様です。休み明けには、同じ内容を読んできた人同士が班をつくって、その年代をまとめる予定です。



5月8日(水)

GWで課題になっていた、柏原高校百年史の内容をまとめました。

「柏原中学ができるずっと前、江戸時代から氷上郡は教育熱が高かった。」「県下で4番目の中学校として創設されるまで、水面下で色々な動きがあった。」「創立当時は学費が高くて、中途退学が相次いだ。」「土井亀之進、大江磯吉といった著名な校長が現れて礎が築かれた。」「女学校が生まれ、やがて世間の反対を受けながら共学になった」。…時代ごとに「最も重要な出来事は何か?」「最も重要な人物は誰か?」という点に絞って話し合いました。

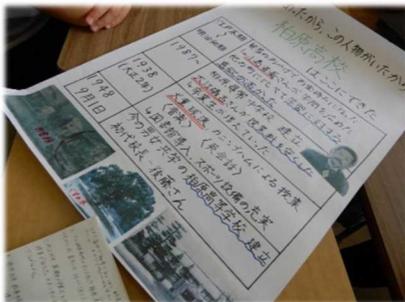


5月15日(水)

前回、時代ごとに柏原高校の歴史上、重要な出来事・人物をあげてまとめました。今回は、それぞれの時代を持ち寄って、7~8人の班で歴史を通じて「最も重要な出来事・人物は?」というテーマで話し合っています。人物の名前の漢字が読めないことが多く、苦勞している班が多かったようです。

6月12・19・26日(水)

柏原高校の歴史「この人がいたから(この出来事があったから)柏原高校はできた(変わった)」のポスターを作成し、発表会が行われました。一人1分ずつ話すことになっていたため、時間を意識しながら一生懸命話していました。また、質疑応答の時間がとられ、良い質問をする人もいました。人前で話すこと、質問することも慣れが大切です。今後、ますます経験を積んでよりよい発表者、質問者になってください。



9月18・25日（水）

1年生の総合は、夏休みにインタビュー、文化発表会で展示した「丹波の偉人」ポスターを示しながら、18日は班で発表しました。4分という短い時間ですが、時間を持て余す人もいれば、周囲に質問してもらって間を持たせている人もいました。25日には代表を選出し、次週のクラス発表に向けて準備を進めています。どんな偉人の魅力が語られるのでしょうか。



9月30日（月）～10月4日（金）進路探究 WEEK

第一学年の総合では、この進路探究 WEEK で学んだ内容を、その講座を受けていない人達に伝えるという活動をします。1週間の中に29の講座に分かれて受けてきました。20人程度の少人数講座から100人を超える講座まで、規模も内容も様々です。進路決定の一助となるとともに、聴いた内容を他人に伝達する練習にもしてほしいと願っています。



12月4日（水）

1年生の総合では、「生き方プレゼン」と題して、過去、現在、将来…について紙芝居形式で自らの生き方を語りました。子供の頃の話、中学生の時の話、家族の話…と、これまでの出来事を振り返りながら、今の高校生活について、そして卒業後の夢や目標を語っています。前回までは「幸せの Happy Set」で自分のことを考えて、周りの友達のことばを聞きました。試験後には、生き方をテーマに講演会を開く予定です。



10月2日（水）

「丹波の偉人」シリーズ総決算。各班から選ばれた人たちがクラスの前で発表しました。インタビューしてきたのは一人ですが、その情報を班内で共有、協働して再び他者に伝えるという作業になります。自分たちの身近に、多くの魅力的な人たちが存在することに気付いたことと思います。小中学校時代の恩師、塾の先生、近所の作業所の方、それぞれの魅力と苦勞されているところなど、役割を決めて上手に発表できていたようです。



第2学年総合

4月12日・19日（金）

第1回は、話の聴き方、読み方について講義と演習を行いました。今年からは講演会、講義のために全学年統一の講演メモを使用します。狙いはただ単に聞いたことを書くだけでなく、重要な語句に絞って書くこと、それに対して持った疑問や意見を書くこと。これまでは「感想文」として書いてもらっていましたが、毎回、与えられた題に答えて書くという形式になりました。第2回では「台湾とは何か」（野嶋剛 著：ちくま書房）を配布し、実際にその一部を読みながら、不明な語句や重要な出来事や人物を書き出すという活動をしています。長い休みを利用して、第2章「台湾と日本」を読んできるところにしました。既に朝の読書の時間を利用して読み進めている人もいます。



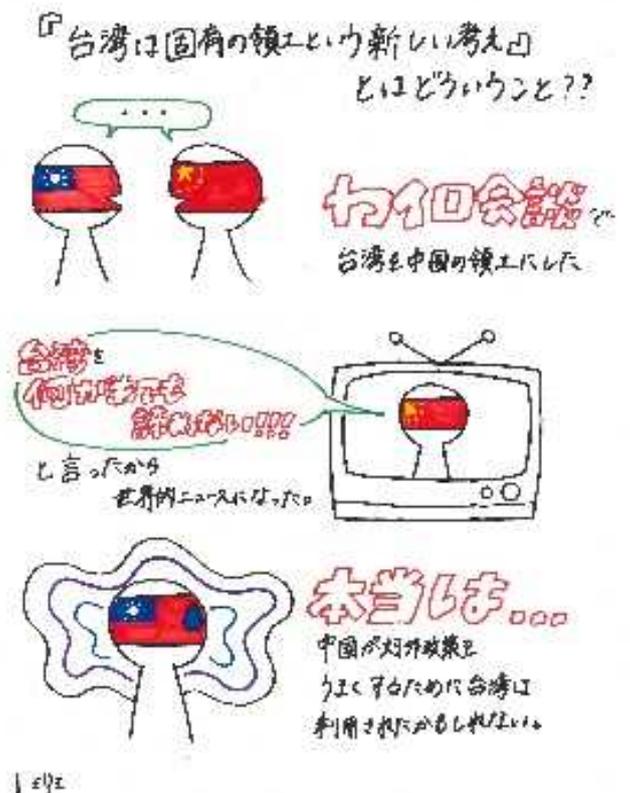
6月21日（金）

6月28日には4校時に、準備してきたポスター、紙芝居を使って発表会をもちます。午後には人権HRとからめて、後藤みなみさんにお話ししていただくことになっています。「台湾は国なのか」「台湾とどう接するべきなのか」歴史的な背景、政治的な内情を理解してまとめなければならないため、難しかったとは思いますが、誰かの話を聞いてわかったつもりになるよりも、「難しい！」と頭を抱えながら自分なりにまとめたことが良い勉強だったと思います。



10月4日（水）

「台湾とはなにか」シリーズ総決算。夏休みに調べてまとめたことを、クラス内で発表しました。同時に野嶋剛さんに対する質問を考えました。優秀なポスターと質問（三つ）は事前に野嶋さんに送っており、今日の講演会の参考にしていただいているはずですが、「ワードポリティクスとは」「天然独とは」…と聞きなれない言葉が飛び交っていました。すべてを理解して発表できたということはないでしょうがわからなかったところは著者に直接質問する機会がありますから、是非尋ねてください。



第3学年総合

4月15日・22日（月）

3年生では進路実現のために、「自分探し」をテーマに、第1回「幸せのハッピーセット」（「自分のしたいこと」「できること」「人から感謝されること」の三つの輪が重なるところを探る）で、なりたい職業、なりたい自分を考えました。第2回では、面接形式で自己分析した結果を人に話す練習をしています。

5月13日（月）

3年生の進路実現のためのシリーズは、面接に向けてワークブックを利用しながら「自分の長所・頑張っていることについて考える」というテーマで取り組んでいます。「自分の経験」「それをやり遂げるのにどのように頑張ったか」「それをやり遂げる中のエピソード」「そこからわかる自分の長所」と、単に経験を話すだけではなく自己分析につながるようにしています。ひとりひとりが書き出した後、グループに分かれて一人2分程度で話し合い、共有しました。



6月10・17・24日（火）

「自己分析」「志望理由」などを自分たちが面接官になって質問したりしながら、話し合う機会をもってきました。過去二回は「最近気になっているニュース」をグループで話し合った後、クラス全員の前で発表したり、「おすすめの本」を紹介したりしながら、面接でも尋ねられるような内容を、自分のことばで語る活動を重ねています。



7月1日（月）

1学期最後の総合は、グループでの面接練習でした。4人一組でグループを作り、お互いに面接官になって、「自己PR」「長所と短所」「志望理由」「気になっているニュース」「最近読んでいる本」など、自由に質問をしました。生徒同士ですが、まじめに質問し、まじめに答えている様子が印象的です。早い人は夏休み中にAO入試などで自分のことを語る機会があるかもしれませんし、就職希望の人たちは、8月中に地域の方々を交えて実戦さながらの面接練習が行われます。それぞれの場面で活かしてください。



12月2日（月）

3年生は、全体で小論文に取り組んでいます。（机に向かっている姿ばかりで絵にならないので、写真が掲載されないという説も）先日から、私立大学はもちろん、国公立大学の推薦入試に合格した人の話が聞かれるようになりました。自己推薦書を書く際、面接の際に探究活動で取り組んできたことが活かされているようです。受験のためにやっているものではありませんが、結果的にそれが強みになっているとしたら嬉しいことですね。とはいえ、すべての入試が小論文・面接ではありません。3月まで試験を受ける人も多いでしょう。自分を信じて、体調に気を付けてがんばってください。

世界にトビタツ文化発表会

1年生は、身近で活躍されている丹波地域の人たちにインタビューし、聴きとった内容をポスターにまとめて、「〇〇（さん）の魅力」として展示発表をおこないました。インタビューを受けていただいた皆さんにも、招待状を持参（または郵送）し、見ていただいています。

柏原高校の歴史を伝える演劇の第3弾は「大江礒吉物語～理想の学園 柏原中学」と称して、第2代校長の大江礒吉先生を取り上げました。3年1組の皆さんが柏原高校の校風を形作られる様子を描きだしてくれました。創立120周年事業として上演した「犬童球溪物語」、昨年の「芦田均物語～少年ヒトシ」と併せて3部作としています。構想では、来年、再び犬童球溪先生を紹介し、再来年は芦田均さん…と3年間の間に、この3人の人生に触れてもらえればと願っています。

歌あり、ダンスあり、演劇あり、模擬店あり、遊技場あり…と多彩な文化発表会ですが、その合間に歴史や地域や世界を感じられる内容になりました。文字通り柏原高校の「文化」が花開くのを感じます。



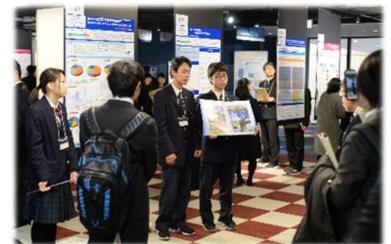
総合・探究合同講演会 12月20日（金）

「人生を大きく変えた修行時代～続けることが大事～」と題して、本校48回生の鴻谷佳彦さん（imagine 丹波・無鹿）にお世話になりました。1年生対象の年中行事のようになっていますが、これからの生き方・学び方を考える上で学ぶところが多かったのではないのでしょうか。鴻谷さんは「勉強したくない」「料理の達人になりたい」と就職の道を選ばれましたが、料理人として修業時代、「姿勢の大切さ」「続けることの大切さ」に気付かれたと言います。姿勢というのは、挨拶、時間厳守はもちろん、「教えてもらう」から「学びとる」姿勢ということでした。自分が選んだ道でも、必ずうまくいかないとき、やめなくなる時がある。その時に、覚えておいてもらいたいとして「S字曲線」を紹介してもらいました。かけた時間に対して、比例するように力が伸びるのが理想ですが、理想通りにはいかない。横ばい、あるいは下降曲線を描きながらも続けていけば目標の高みに到達するのだという話でした。今まではここで終わっていたのですが、今年は「若者支援」ということで、この地域の若者たちが集まって学ぶ場を提供されているということを紹介していただいています。



TAMBA から発信する

11月4日「高大連携課題研究合同発表会」（京都大学）のポスターセッションでは、探究Ⅱの防災班の5名が「豪雨災害時におけるハザードマップの有効性と課題」と題して発表しました。引率された和田先生から11月8日付のNo.44で紹介していただきましたが、再び紹介しておきます。同班は三田図書館の主催する「図書館を使った調べる学習コンクール」に論文を出品し、佳作を受賞しました。



『豪雨災害時における手作りハザードマップの有効性と課題—平成26年8月丹波市市島町下鴨阪地区における豪雨土砂流出被害を事例として—』
足立涼輔・小島瑞輝・永田雄士・西山善之・山本哲也

11月15日「関西学院 Research Fair 2019」が関西学院・神戸三田キャンパスで開催され、「丹波三宝を用いた離乳食&ベジタリアン」が「ポスター発表実行委員会特別賞」を受賞しました。このリサーチフェアは関西学院の総合学部の学生に加え、高校生も数多く出場しています。このほか、「柏原高校をよりよくする」「丹波市密着型祭りにしよう」「丹波市を外国人の住みやすい街に」「人口減少について」というテーマで出場しています。以下、代表者を紹介します。

『丹波三宝で離乳食』（荒木勇真）、『柏原高校をよりよくする』（廣岡潤哉）、『丹波市密着型の祭りにしよう』（大垣瑞樹）
『丹波市を外国人の住みやすい街に』（西田朱里）、『人口減少について』（足立凌）

11月23日「関西学院 Sci-Tech Research Forum」に「Project of 花粉」「情報産業を活用した地域復興」の二班がポスターセッションで出てきました。

『プロジェクト of 花粉』（佐神法秀）、『情報産業を活用した地域復興』（川合賢志郎）

12月14日「全国高校生 My Project Award 2019 (マイプロ)」北近畿選考会が福知山の市民交流プラザふくちやまにて開かれます。ここには、知の探究コース2年生が全員出場することになっています。出場17プロジェクト中、12が柏原高校だそうで、見学に行く1年生を含めると50人以上が参加することになります。まるで、本校の行事のようです。

*全グループ出場（前述テーマは省略）

『丹波市豪雨災害における土砂災害の前兆現象について』 小島瑞輝

『丹波市豪雨災害における共助のはたらきについて』 山本哲也

『高齢者の徒歩における避難能力について』 足立涼輔

『外国人労働者と共生した社会に向けて』 石塚愛佳

『スタンディングデスクを用いた授業スタイル改革に向けた一提案』 増田莉子

*『柏原高校をよりよくする』をテーマに発表したグループが、グランプリを獲得し、2月29日に関西大学で行われる関西大会に駒を進めました。



12月22日「全国高校生フォーラム」(東京国際フォーラム)が開かれ、全国のSGH、WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)、「地域との協働による…」事業の指定を受けている学校の生徒たちが出場します。ここに、探究Ⅱ「スタンディングデスク」班が出場し、英語でプレゼンテーションを行うことになっています。

12月22日「甲南大学リサーチフェスタ2019」にも探究Ⅱから防災班、探究Ⅰからも小川美那さん、宮崎晃成君、嶋田衣里さんが出場します。いよいよ、1年生も校外デビューとなりました。

研究推進部にいながら、スケジュールの把握がしづらくなるほど、毎週誰かが出て行って発表してきます。県内、近畿地区にとどまらず、全国に「TAMBAのKAIBARA」の名を知らしめてきてもらいましょう！



Sci-Tech Research Forum (関西学院 HP より)



京都大学での教授陣からの質問に答える防災班

2月13日(木)14日(金)「第5回高校生国際シンポジウム」(鹿児島市宝山ホール)に、知の探究コース2年生の増田莉子さん、根ヶ山朋花さん、萩原涼葉さん、荻野茉菜さん、酒井英莉さん(以下スタンディングデスク班、略してスタ班)が「授業スタイル改革に向けての一提案～スタンディングデスクを題材として～」と題して出場し、ポスター発表「ジェンダー・教育部門」で、優良賞(第3位)を受賞しました！おめでとうございます。

SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)、SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(グローバル型・地域魅力型)に指定されている学校の全国大会です。九州からは本紙でも紹介した鹿児島甲南高校、

宮崎県立五ヶ瀬中等学校をはじめ、佐賀西高校、長崎県立諫早高校、関西からは大阪教育大学附属平野や近畿大学附属、中部からは岐阜高校、名城大学附属、関東からは三田国際学園、佼成学園女子高校、北海道からは札幌日本大学高校と全国津々浦々…。事前の書類選考を通過した100グループが集いました。スライドによる発表とポスター発表がそれぞれ5分野（ジェンダー・教育、地域課題、国際・観光・ビジネス、環境問題、自然科学・数学）に分けられています。発表は13時から17時15分まで3部制で行われ、スライド発表は12分のプレゼンの後、10分の質疑応答、ポスターセッションでは審査員と見学者を前に40分間で4回のプレゼンを繰り返すという過酷なものでした。

スタ班は第3部で神村学園の「鹿児島県の高校生の性格差や性差別への問題関心をより高めるには」鹿児島修学館高校の「発達障害を持つ子供の学びについて」、郁文館グローバル高校の「幼児教育の重要性」という三つのポスターと並んで発表しました。結果として、第3部から神村学園が優秀賞(2位)、スタ班が優良賞に選ばれたということは、激戦区だったと言えます。4回の発表の間に四つの発表を聴きましたが、いずれもしっかりした内容です。しかし、見てもらった先生方の何人かから「今日見たポスター発表の中で一番良い」とお褒めの言葉をいただき、何人もの方がポスターの写真を撮って帰られました。途中、撮影スタッフが発表を最初から最後まで動画に収めていった時、「もしかすると、最終審査には残るかもしれない」とは思っていました。

私は1部の間はホールでのスライド発表、2部は小教室でのスライド発表を見学していましたが、高校生とは思えない（あるいは高校生ならではの）視点、活動内容がうかがえるものばかりです。「ジェンダーフリーな制服を提案する」（名古屋経済大学市邨高校）では、LGBTの生徒が快適に学校生活を送れるように、男女の別のない制服をデザインして、全校アンケート、署名活動を行い校長先生まで届けにいったものでした。「外国人生徒への教育支援」（岐阜高校）では、外国人児童が不就学、不登校になる原因の一つに「勉強についていけない」ことがあることに着目し、市内の支援団体に手伝いに行き、中学生対象にわからない科目を教える活動をする。いずれは全国ネットでこの支援を広げたいと発表していました。「一般家庭における1年間に消費する魚の消化管に含まれるマイクロプラスチック」（神戸市立科学技術高校）は、120匹の鰻を近所のスーパーで購入して、一匹一匹をさばきながら消化器官を取り出して、顕微鏡で調べるという研究を発表。たまたま、聴いていたこれら三つの発表が各部門の優秀賞、優良賞に選ばれています。受賞することが目的ではありませんが、他の方から見て面白いと思ってもらえる、そして社会的に意味があると思ってもらえる研究ができるように、今後も探究活動を進めていきたいと強く思っています。



2月29日「全国高校生 My Project Award 2019 (マイプロ)」関西大会

コロナウィルスの影響を受け、政府から文化・スポーツイベントの中止、延期の要請を受け、この大会は生徒が一堂に会することを避け、オンラインでの発表会となりました。50以上の発表の中から、『柏原高校をよりよくする』の発表はベスト7に残り、決勝進出を果たしました。決勝の結果はメールで通知されることになっており、現在発表を待っています。(3月3日現在)

